（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】(1階フロア)

事業所番号	2774001149		
法人名	株式会社　エイトサービス		
事業所名	グループホーム豊中オアシス		
所在地	大阪府豊中市南桜塚4丁目11-3		
自己評価作成日	平成28年5月23日	評価結果市町村受理日	平成28年7月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　FGビル大阪　4階
訪問調査日	平成28年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

木造の昔懐かしく落ち着けるホームです。明るく楽しい家庭的な環境を提供し、何でも気軽に話せるような関係づくりを心掛けています。
地域のお楽しみ会や、敬老会にも参加させていただいて地域とのつながりも大切にしています。
１人１人の思いを大切に個別ケアも行い、その人がその人らしく活き活きと生活できるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は元看護師寮だった木造2階建ての施設を改装した。開設15年を経過しているが施設内は心やすらぐ、居心地のよい、アットホームな雰囲気が漂っている。管理者・ユニットリーダー・職員間のコミュニケーションが良く、利用者ごとの日々の暮らしぶりを把握し、本人本位の思いに沿った個別ケアを大切に支援している。校区福祉委員会が2ヶ月ごとに開催している”お楽しみ会”や小学校体育館で定期的に開催する地域の”敬老会”等に参加し、地域住民との交流を図っている。運営推進会議に校区福祉委員4人（民生委員や地域住民）が毎回参加され、地域の情報を得る等、運営に活かしている。協力医療機関の内科医が平日毎日来訪されており、利用者の変化を報告し、薬の改善を図ったりしている。泌尿器科等様々な専門医への通院支援も行い、健康面に配慮した支援を行っている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境で利用者に応じた自立を支援、安心・安全に暮らせる環境を理念のもと取り組んでいる。	4項目の理念を掲げ、掲示し、職員会議等で確認し、職員の共有を図っている。管理者・職員間の意思疎通は良く、気軽に意見が言える雰囲気の下で理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園や神社への散歩、地域行事（盆踊り・市民文化祭・敬老会）、定期的に行われている老人会の集いへ積極的に参加している。	事業所が位置する地域は自治会活動は行われておらず、校区福祉委員会が主催するお楽しみ会・市民文化祭・敬老会等に積極的に参加し、地域住民と交流を図っている。校区福祉委員よりボランティア利用の助言を得たり、保育園との交流を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年開催している納涼祭には近隣の方々にもお知らせして開放している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催しており、市高齢者支援課職員、校区福祉委員長、介護相談員、地区包括支援センター職員、利用者代表の出席の下、近況報や意見交換を行いサービスに活かしている。	利用者・家族・地域包括支援センター職員・市職員・校区福祉委員4名・介護相談員2名が参加され、年6回開催している。施設報告だけでなく地域住民の代表から色んな情報を得て、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して現況報告や相談を執り行っている。また、連絡会へも積極的に参加させて頂いている。	介護認定等で市に出向いたり、生活支援課とは頻繁に連絡し合い、市の助言を得るようにしている。市が主催する連絡会には積極的に参加し、情報を得るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要が生じた場合はご家族様、医師へ相談し短時間のみ行う場合もあるが、経過観察と月に1度再検討を行っている。 また、身体拘束ゼロ研修を行い正しく理解できるよう指導している。	”身体拘束ゼロの手引き”のマニュアルを整備し、年間研修計画に基づき、定期的な研修を実施し、職員の共有を図っている。原則、身体拘束は行わないことを明示し、職員はそのケアに取り組んでいる。結果的に利用者との外出が増え、散歩も日常的に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	市の連絡会で開催されている虐待防止の研修に参加し、それを生かした施設内研修を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はまだ成年後見制度について職員一同勉強の機会をもっていないが今後は社内研修を行っていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点がないように充分に説明を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加、介護相談員の来所などの意見交換を取り入れ反映するよう取り組んでいる。利用者、家族の意見、要望を聞くことを常に心掛け家族様向けに意見箱を設けている。昨年には家族へアンケートの実施を行った。	家族との面談時には意見や要望を聞くように努めている。苦情処理簿を整備し、把握できた苦情等を記載し、運営に活かすようにしている。写真入りの「施設便り」に加え、利用者ごとの担当者による毎月の「暮らしぶり」の事実の通知を検討している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時職員会議を開催し、意見交換や情報の共有を行っている。 また、昨年より定期的に年2回職員の個人面談を行っている。	毎月、職員会議を開催し、職員は気軽に意見を言える雰囲気になっている。ユニットリーダーは日常の課題があれば皆で話し合い、運営に活かしている。法人は職員の研修費用を負担したり、定期的な個人面談も実施し、働き甲斐のある環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が遣り甲斐やスキルアップできるよ うに研修費を会社が負担してくれるようになっています。向上心をもって働けるようになっていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や施設内研修の充実、今後もどのような研修を受けたいかを聞き取りしながら年間計画に沿って行いたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会や、勉強会には管理者、職員が参加しサービス向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様からの不安や要望を確認し、入院中や他のサービスを利用されていた場合には担当者にも話を聞き参考にし、無理のないサービスの提供を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員によりご家族様の不安、要望を傾聴し、それらの解消に努め信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の話を傾聴し、その中で必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添う介護、利用者本位の介護ができるよう心掛け、本人の出来る所は協働しながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と密に連絡を図り、相談しながら本人にとって良いサービスとなるよう支援している。また、ご家族様とも外出や外食により楽しい時間が持てるように年2回の行事を企画している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問や電話、外出を制限なく行っている。	利用者の息子（死亡）の友人が毎月来訪されている。昔のキリスト教の仲間や在宅時のケアマネ担当者等が来訪さたケースがある。今まで利用していた近隣の喫茶店に出掛けたり、2ヵ月に1回の”お楽しみ会”が馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席の配置等、関係性を見極めて状況に応じて変更を行っている。レクレーション等を行い、孤立することがないよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があればいつでも相談に応じれるように繋がりを大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の話を傾聴し、日々の生活、会話や行動を観察しご本人様の意向を把握する様に努めている。	入所時にアセスメントで過去の生活歴等を把握し、職員は共有している。施設内に利用者の名前と生まれた年を貼りだし、傾聴し易い環境を作っている。入所後も繰り返し利用者・家族から新たな思いや希望を聞き、フェースシートを毎年更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを参考にしながら、ご本人様やご家族様、友人の方に生活歴や馴染みの場所等の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や心理の状態を観察し、申し送りや介護記録、報告等にて現状の把握と情報の共有ができるようにしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い、ご本人様の状況や職員からの気づき、ご家族様からの要望等について話し合う機会を設けており、状況の変化があった場合には見直し作成している。	日々、支援経過に利用者の状況や変化を記載し、毎月モニタリングを実施し、医師や家族と相談しながらチームによるカンファレンスも行い、現状に合った介護計画作成につなげている。見直しは6ヶ月ごとに行っているが急変や入退院時には即対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づき、工夫したケア等を介護記録へ記載し、申し送りやカンファレンスを行い情報共有、改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様との話し合いをもってその都度のニーズに合わせ、個別の対応を取り入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しに参加し、楽しみや地域の方と顔なじみになり、安心安全な生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の内科往診とご家族様協力のもと、定期受診や専門受診を取り入れている。	協力医療機関の医師が平日毎日来訪され、利用者は月に2回の往診を受けている。利用者は様々な疾患を持っており、泌尿器科や精神科医等の専門医には通院支援を行っている。歯科医は毎週来訪され、必要に応じて治療している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関より月に2回訪問看護師が訪問しています。相談や、置き薬の確認等をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーの提供、定期的に病室へ訪問し、状況把握をしている。退院時には診療情報提供書、看護サマリーのもとカンファレンスを行い取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様との話し合いの場を設け、施設での対応が限度があることを説明し、了解を得て支援している。	入所時に家族に看取りの方針を伝えている。24時間の医療連携の課題があり、事業所は出来るだけの支援をしているが、重度化には病院に配送している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応指示をスタッフルームへ掲示している。救命講習会の参加受講を勧め、急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を年2回実施している。災害発生時の対応フロー図をスタッフルームに掲示している。	年2回の消防避難訓練を実施し、内1回は消防署の指導を受けている。災害発生時のフローチャートを掲示し、職員の共有を図っている。飲料水や米の備蓄はされている。	地震発生時の落下物（居室のタンス等）に関する転倒防止の対策を行い、夜間時の火災は外部資料を参考にし、職員がパニックにならないよう、別途、夜勤職員による夜間を想定した訓練を期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを意識して行っている。	入浴やトイレに於ける同性や異性介助は利用者の希望に応じて支援している。職員同士がプライバシーを損ねる言葉掛けや態度に気づいた時は互いに注意し合うようにしている。呼称は原則、～さんを基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に希望や自己決定ができるような声掛けの工夫や環境づくりを心掛け支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムを大切にし、本人本位の介護に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、ヘアーサロン（訪問）を取り入れており、ご本人様の希望を優先している。 爪切り等も定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	副食については、ケータリングのため、日常的な調理は行っていないが、配膳等の準備は利用者と職員が共に行っている。また、料理レクとして入居者様と一緒におやつ作りを行っている。	御飯とみそ汁は事業所で手作りし、副食は法人が加盟している近隣の介護事業協同組合から調理済みの冷凍したものを調達している。月・水・金の夕食は出来立てを食事している。定期的におやつ作りは利用者も参加して調理している。	利用者にとって食事は大きな楽しみである。副食に関しても食事レクレーションとして食材・献立・調理を皆で話し合い、利用者も参加し、匂いや音を感じられる手作り料理の試みを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や食事・水分摂取量など1人ひとりに応じた対応を行い、記録をしており、把握と体調変化の早期発見に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄、歯磨き、うがいによる口腔ケアを行っている。訪問歯科による衛生管理や義歯調整も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、定期的なトイレ誘導を行い失禁防止に取り組んでいる。オムツ使用の必要な方も夜間のみ対応を原則とし、日中は紙パンツや布パンツにパットを使用し、トイレでの排泄支援を行っている。	排泄パターンを把握し、日中はトイレでの自立排泄につなげている。布パンツで生活できる方が6人いるが、オムツに頼らないように日々の運動やマッサージ及び水分補給を大切に支援している。夜間は睡眠妨害にならないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物の工夫や、トイレでの排泄支援を積極的に行い、腹部を温めたり、マッサージを取り入れて極力下剤の服用は控えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日があり、1人ひとりの意思を尊重し強制はせずに状況に合わせて支援している。	基本は週2回の入浴が出来るように支援している。嫌がる利用者には時間を置いたり、会話を工夫し、信頼関係を築き、入浴につなげている。入浴剤を使い、楽しみの入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣や、体調に合わせ、日中の休息ができるように支援している。夜間の睡眠の質を良くするためにも、日中に適度な運動や散歩などを取り入れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表の把握、症状の変化があれば随時医師へ相談と報告を行っている。 服薬介助では誤薬等がないよう、複数人での確認を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望や生活歴にあった役割を職員間で相談し支援している。一人ひとりの楽しみごとをご本人様やご家族様から聞き取り、気分転換ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や公園、神社への散歩等の外出支援を行っている。また、年2回は全体でバス旅行を企画し、ご家族様にもご協力頂きながら楽しんでいただけるように努めている。	日常的に近隣の公園や神社への散歩及び買い物に出掛けている。年2回、グループのバス旅行を企画し、家族にも参加を呼びかけて実施し、利用者にとって大きな楽しみとなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は、同行し、ご本人様がレジにて会計できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との電話やお便りのやりとりは自由にできるよう支援している。ご本人様より電話の希望があった場合も対応し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の室温調整、清掃の徹底、距離の長い廊下にはソファーを置いて自由に休んで頂けるようにしている。共有の空間の壁には行事の写真やレクレーションの作品などを飾り季節感を感じて頂けるよう配慮している。	居間兼食堂・トイレ・浴室・廊下等の共用空間は明るく違和感が無く、ソファーを適切に配置し、壁には季節を感じる貼り絵やイベント時の写真及び習字等手作り作品が飾られている。利用者ごとの名前と生まれた年を記載したものが貼られ、利用者同士や職員との会話が弾むようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファーを置いて、気の合う利用者同志が思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご家族様と相談し、ご家庭で使用していた家具を取り入れ、馴染みのある環境作りを行い、混乱なく安心して落ち着いて生活できるよう配慮している。	使い慣れた家具や置物・テレビを持ち込み、馴染みの写真等を飾り、居心地よく過ごせる居室となっている。換気等を大切に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレ、浴室には分かりやすい表示にし、廊下には手すりを設置して認識しやすく安全な環境づくりに努めている。		